

令和元（2019）年10月5日（土）

黒崎種田遺跡発掘調査現地説明会資料

富山市教育委員会 埋蔵文化財センター

1 調査の概要

- (1) 工事内容 富山県医師会館新築、同駐車場造成工事
- (2) 工事主体 公益財団法人 富山県医師会
- (3) 調査主体 富山市教育委員会
- (4) 調査受託 株式会社アーキジオ
- (5) 現地調査期間 令和元年7月22日から10月下旬まで（予定）
- (6) 調査面積 785㎡

2 調査の成果（現在調査途中であり、今後遺構数など内容が変わる可能性あり。）

- (1) 溝で区画された館跡とその周囲に、井戸跡13基（石組み・木組み・素掘り）や竪穴状遺構7基、土坑（馬小屋か？）、石室などの遺構を検出した。主な遺構の時期は、鎌倉時代後期から室町時代（13世紀～15世紀）が中心である。
- (2) 漆器や曲物、編み物など多数の木製品のほか、中世土師器（かわらけ）、刻書のある珠洲焼、金付き土器、古瀬戸、青磁、刀の鏢、漆紙、石臼、陶硯かなど収納箱約40箱分が出土した。
- (3) 石組み井戸が北西から南東方向に一直線に並んで検出されたことが注目される。地下の水脈に沿って、何世代にも渡って井戸を作り続けていたことがうかがえる。
また、一部の石組み井戸では、井戸埋め戻し時に漆器や箸、竹などを用いた祭祀が行われていたことが判明した。石組みの最下段の石の上に漆器皿と箸を2本組み合わせ供えた様子は、蝮川氏の家紋の一つである「合子に箸」を想起させる。
- (4) 室町時代の足利将軍に仕えた蝮川氏発祥の地「蝮川館跡」の北に隣接しており、江戸後期に作成された古絵図「蝮川館跡之図」（金沢市立玉川図書館蔵）にみえる蝮川館跡の北側にあったとされる「屋敷跡」との関連が推測される。
- (5) 発掘された遺構の時期が蝮川館跡の存続時期と重なることから、蝮川氏一族の居館が家臣の有力武士が暮らす居館がこの地に営まれていたと推測される。

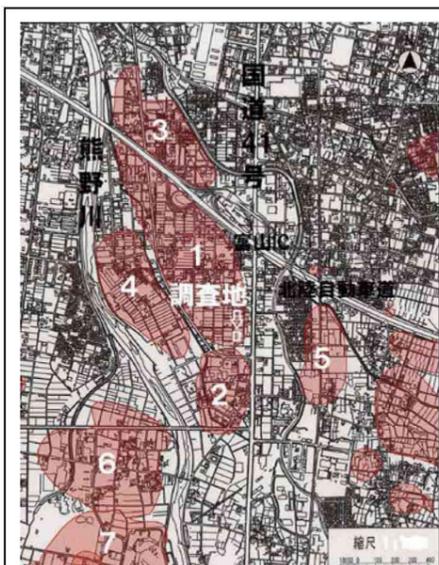


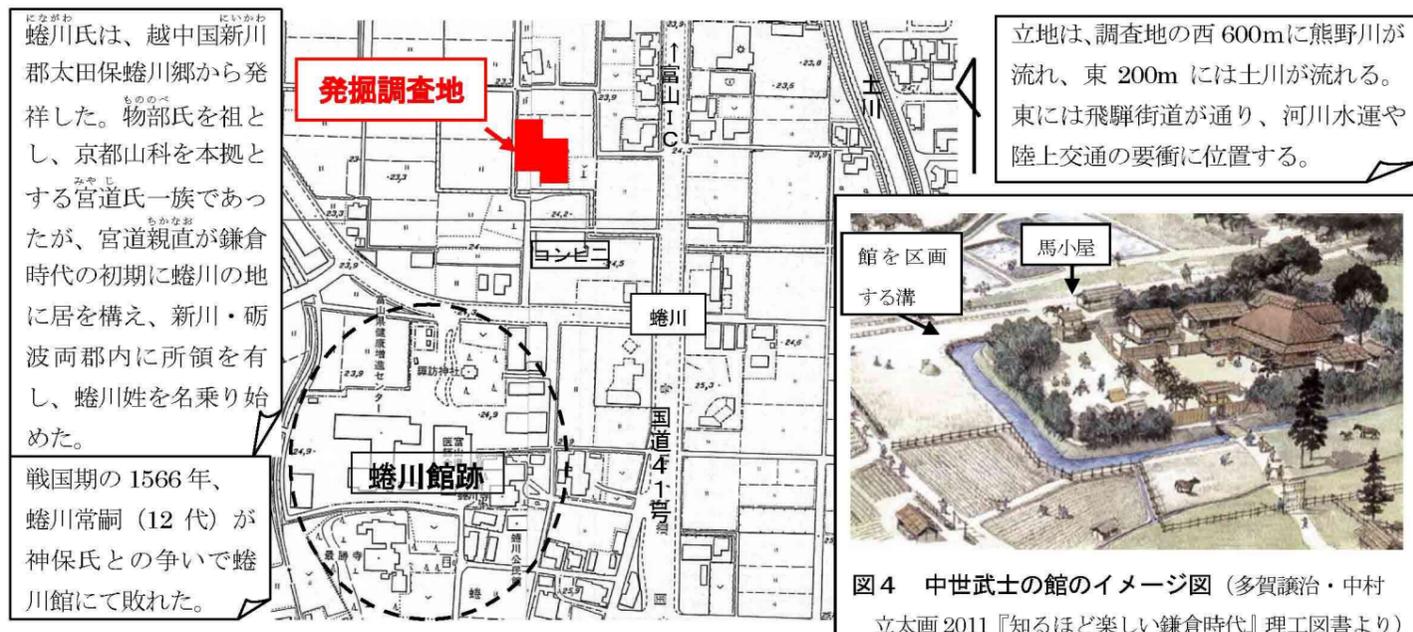
図1 黒崎種田遺跡と周辺の遺跡



- 1 黒崎種田遺跡
- 2 蝮川館跡
- 3 黒瀬大屋遺跡
- 4 八日町遺跡
- 5 上野井田遺跡
- 6 友杉遺跡
- 7 任海宮田遺跡



図2 蝮川館跡と周辺の城館



「此辺所々高下アリ、土人云屋敷跡也ト、不分明難図」の注記あり。⇒蝮川館の北側に地元の屋敷跡と伝えているところがあったようだが、関連は明らかでない。

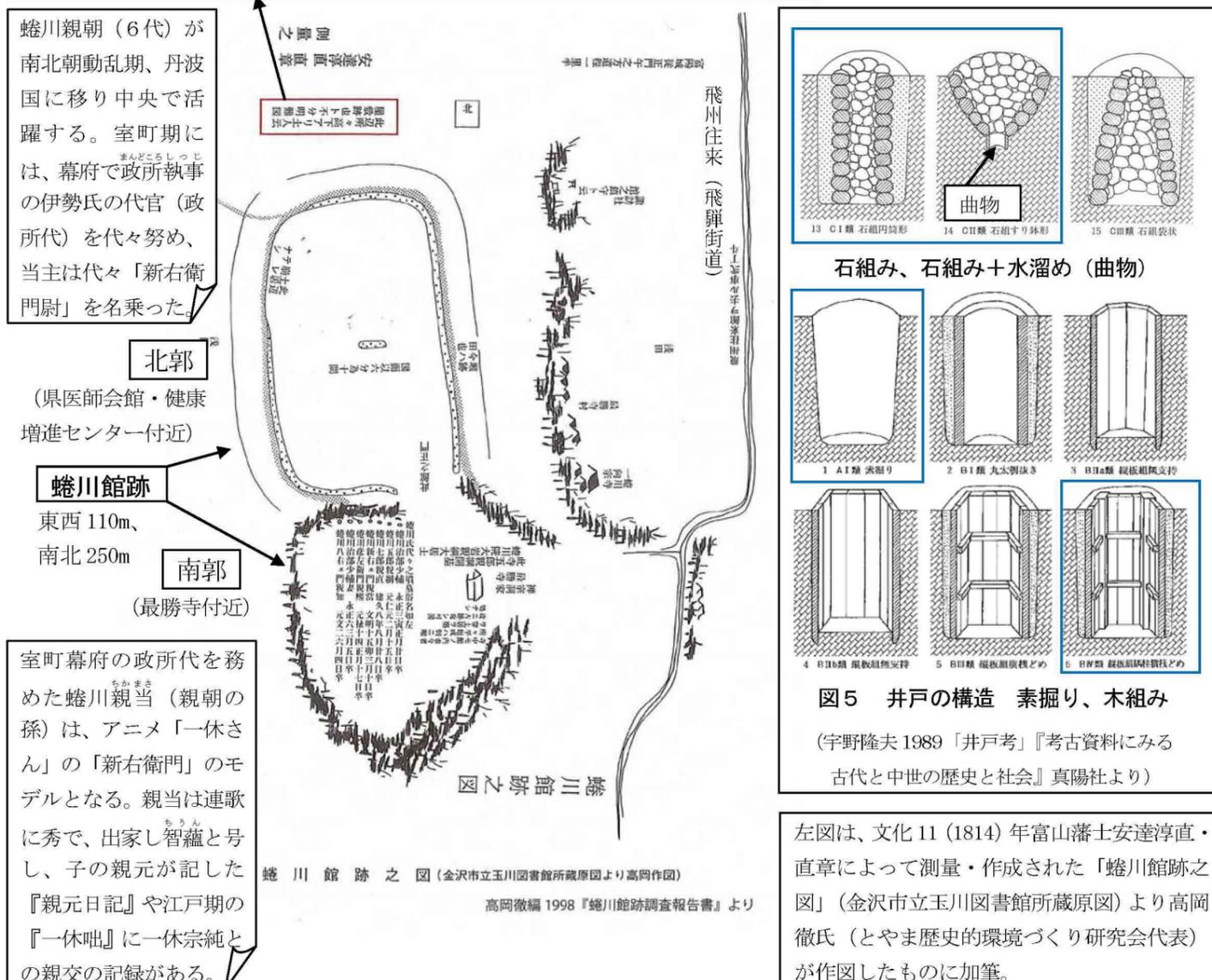


図3 発掘調査地と古絵図「蝮川館跡之図」の比較

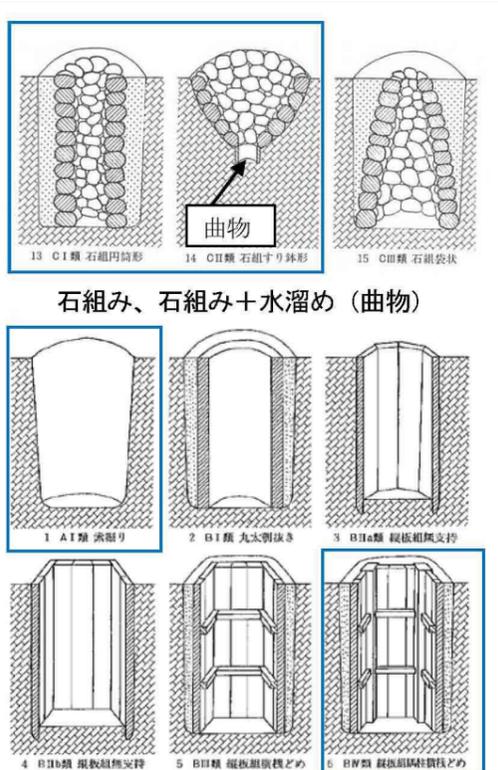


図5 井戸の構造 素掘り、木組み
(宇野隆夫1989「井戸考」『考古資料にみる古代と中世の歴史と社会』真陽社より)

左図は、文化11(1814)年富山藩士安達淳直・直章によって測量・作成された「蝮川館跡之図」（金沢市立玉川図書館所蔵原図）より高岡徹氏（とやま歴史的環境づくり研究会代表）が作図したものに加筆。



SE05 (5号井戸)
井戸枠板組の井戸 (水溜めに曲物あり)
出土遺物: 井戸枠板材



SE58 (58号井戸)
石組み井戸 (水溜めに曲物あり)
出土遺物: かわらけ (皿)、箸



SE61 (61号井戸) 石組み井戸 (曲物あり)
出土遺物: 漆器椀・皿、下駄、かわらけ (皿)



SP120 出土遺物: 金付き土器



SE83 (83号井戸)
出土遺物: 珠洲焼, 古瀬戸, 漆容器, 漆紙



SE81 (81号井戸)
井戸枠板組の井戸



SE03 (3号井戸)
石組み井戸 (水溜めに曲物あり)
出土遺物: 石臼、珠洲焼



SE48 (48号井戸)
井戸枠板組の井戸 (水溜めに曲物なし)
出土遺物: 井戸枠板材



SE02 (2号井戸)
石組み井戸 (水溜めに曲物あり)
出土遺物: 箸、かわらけ (皿)、珠洲焼、焼けた石



SE01 (1号井戸)
素掘り井戸 (水溜めに曲物なし)
出土遺物: 漆器椀



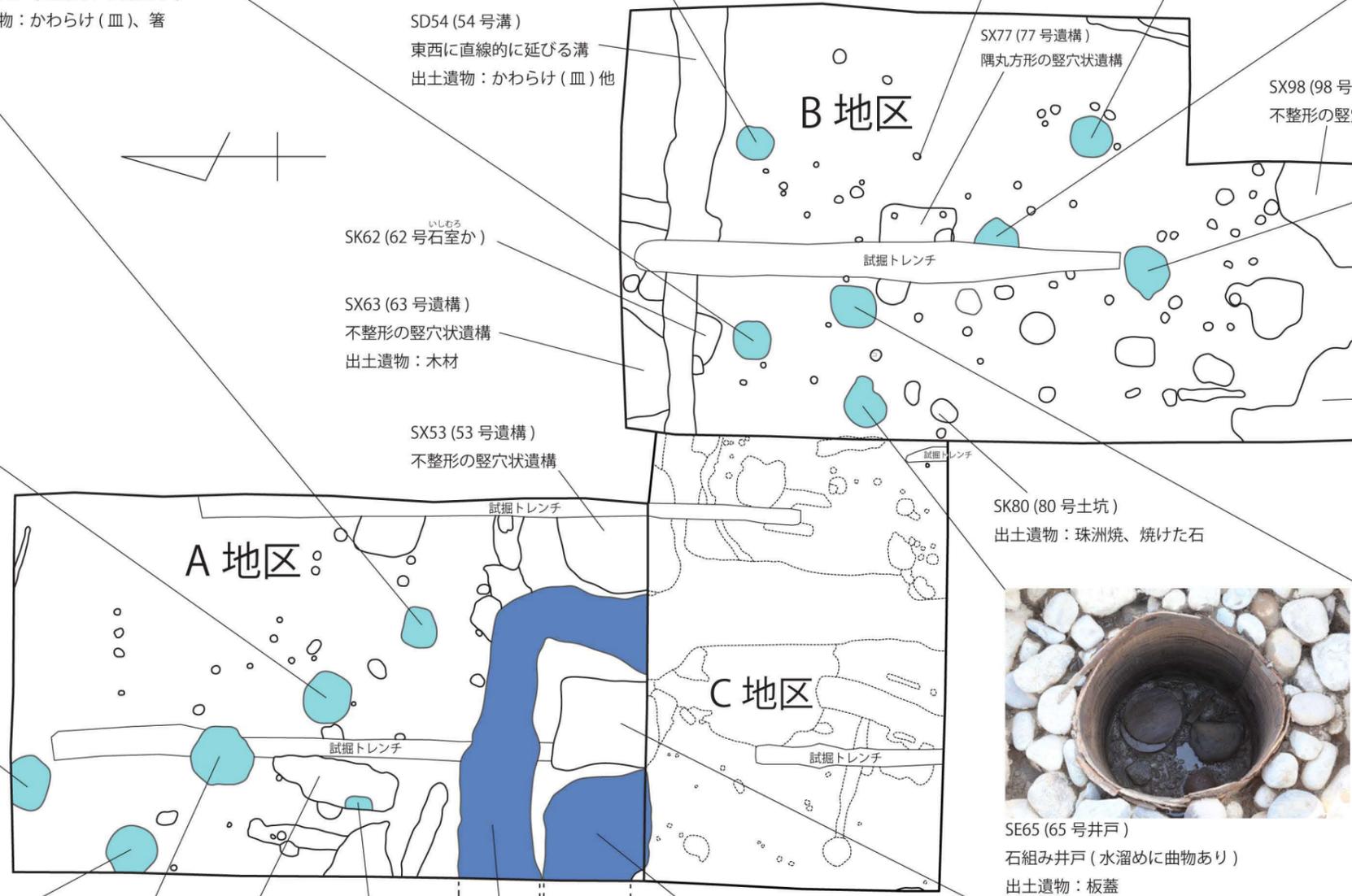
SE49 (49号井戸)
石組み井戸 (水溜めに曲物あり)
出土遺物: 柄杓、漆器椀、板材、編み物、陶硯か



SE65 (65号井戸)
石組み井戸 (水溜めに曲物あり)
出土遺物: 板蓋



SX52 (52号遺構)
隅丸方形の竪穴状遺構
出土遺物: 刀の鏢 (銅製)



SE108 (108号井戸)
石組み井戸 (水溜めに曲物なし)
出土遺物: 珠洲焼



SD96 (96号溝)
出土遺物: 下駄、珠洲焼 (刻書土器)



SE64 (64号井戸)
素掘り井戸 (水溜めに曲物なし)
出土遺物: 板材他

図6 遺構概略図

S=1:200